

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛先) 京都府知事	平成 26年 7月 8日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 〒623-0054 京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 日東精工株式会社 代表取締役社長 材木 正己

環境マネジメントシステムの名称	ISO 14001
適用範囲	本社工場・八田工場・城山工場・制御システム工場
導入年月日	2000年5月19日(本社・八田) 2008年7月4日 認証範囲変更(城山・制御追加)
認証番号	E0954 エイエスアール(株)
基本方針	企業活動を展開する上において、環境保全を最重点とし、地球環境と地域環境を守り、社会と調和して豊かな社会の実現に貢献することを目的とします。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	【2012-2014年中期目標】 別紙1記載 【2013年目標】 1 廃棄・終品不良率、クレーム(社内外)件数を前年度比30%を削減する 2 廃棄物のリサイクル化を進める 3 環境リスクの低減 4 環境にやさしい業務を推進する 【2014年目標】 2013年と同じ
目標を達成するための取組の内容	【2013年取組内容】詳細並びに具体的数値については未公表 1 (1) 廃棄重量を30%以上削減する (2) 終品不良を30%以上削減する 2 (1) 廃アルカリを再利用する (2) 廃棄物のゼロエミッションを目指す 3 (1) 亜鉛排水濃度2mg/L以下を維持する (2) 薬品、油などの漏洩防止、オイルパン設置、漏れ対策を実施する 4 (1) 省エネ、省資源等環境負荷のより少ない生産活動へ改善を進める (2) 工場の美化、不要物の撤去、廃棄物の削減と分別の徹底を図る (3) 3M(ムリ、ムダ、ムラ)の排除を行う (4) 地域や住民に配慮した作業を行う 【2014年取組内容】 2013年と同じ
目標を達成するための取組の進捗状況	【2013年4-12月進捗状況】 1 不良対策委員会にて廃棄及び不良削減への取り組み 2 産業廃棄物委員会にてリサイクル化への取り組み 3 水質委員会にて排水監視、地下漏洩対策への取り組み 4 省エネ委員会にて省エネへの取り組み【項目(1)】 省資源委員会にて省資源への取り組み【項目(1)】 各ブロック、各部門を中心に取り組み【項目(2)(3)】 人事総務部、生産技術部を中心に取り組み【項目(4)】 【2014年1-3月進捗状況】 2013年と同じ
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	【2013年4-12月成果】 *対前年同期比 1 不良廃棄: 35.5%減 廃棄率(対投入材料): 36.3%減 2 廃アルカリ: 13.0%増 原単位(売上): 18.7%増 3 維持管理継続 4 照明LED化、省電力空調化、遮熱塗装など実施 【2014年1-3月成果】 *対前年同期比 1 不良廃棄: 0.5%増 廃棄率(対投入材料): 5.4%減 2 廃アルカリ: 42.0%増 原単位(売上): 32.3%増 3 維持管理継続 4 ESCO事業により照明LED化、省電力空調化など実施 【全体評価】 1 新規製品、高難易度製品への移行に伴う試作不良の対策検討が必要 2 洗浄液の浄化システムと管理標準の早期確立が必要 3 数値がオーバーした場合の緊急対応手順を更に明確にし訓練を行う 4 CO2排出量は年々削減されているが、原単位(売上)においては増加傾向にある
事業活動に係る法令の遵守の状況	【2013年4-12月遵守状況】 特定施設の届出: (新設)熱処理炉・メッキ装置・スクラパー (移設)ニッケルメッキ装置浄化槽廃止(3槽) 法定責任者の届出: 公害防止統括者選任・解任、公害防止統括者の代理者選任・解任、危険物製造所等の所有者等の氏名変更、高圧ガス製造所名称等変更、工場・管理統括者選任・解任、他 環境測定: 大気、水質、騒音、振動、浄化槽、他 報告: 廃棄物報告、省エネ報告、**有害物質報告、特定化学物質報告、温室効果ガス報告、リサイクル促進報告、土壌汚染報告、他 【2014年1-3月遵守状況】 特定施設の届出: なし 法定責任者の届出: 工場・管理企画推進者選任届 環境測定: 大気、水質、騒音、振動、浄化槽 報告: 消防用設備等点検結果
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	社長方針を受けて全社目標を掲げ、ブロック、部門での計画的な取組を行い、環境管理担当者会議やブロック会議等で進捗を管理している。各種取組の成果のひとつひとつはまだ不安定であり、かつ抜本的対策による成果と言えないものもある。特に市場やユーザー要求の変動に大きく影響を受ける面があり、確実なスパイラルアップを狙った対策が必要である。但し、過去からの中長期的な見方をすれば着実に成果は表れてきている。特にCO2排出総量に関しては社内目標を毎年上回っており、加えて今期ESCO事業により導入の省エネ型空調機やLED照明などの成果にも期待している。課題は、原単位(対売上)の上昇であり、「環境管理活動=事業活動」の観点から分析並びに対策の検討を重ねて行く。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムの内容について第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。